

---

# 恋文

大蚊里伊織

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

恋文

### 【Nコード】

N8929Y

### 【作者名】

大蚊里伊織

### 【あらすじ】

文章を書く主人公が、結婚して幸せになるはなし

恋文を書いたのは数度ある。文章にするしかなかった想いもある。私の小説はずっと誰かあての恋文だった。

恋を書かない小説が書きたいと望んだこともある。でも、気がつくとは登場人物に自分と好きだった人をかさねていた。

きつと私はこの先もこういう書き方をするのだろう。と。思った。

「一緒に暮らませんか」

その言葉を、やっと聞いたのは、付き合って五年目。私は小説家として歩きだしていて、彼は漫画家として動き出していた。いくつかの仕事をいただいて小説を書いた。書かないといけないと思った。恋愛をかさねない文書を書けるようになったのはそのころだった。

さきはわからないものだと思う。大事なものが恋愛ではなくなったのかもしれない。好きな人が大事な人に変わり、一緒に暮らすようになって日常がいとおしくなった。

恋愛としての夫もいるが、家族としての夫もいて、恋愛と、日常と、生活が大事になった。

やがて私は妊娠し、籍を入れた。式はしなかった。

新しい作風に挑戦しませんか、と言われて、そうね、と私は考えた。

新しい恋文を書こうと思った。夫へとまだ見ぬわが子に。

子供ができて、社会への見方も変わった。いろんなことを知って、

わが子を守らなければと思うようになった。夫になった人も。腹をなでて、俺も父親になるんだな、と言った。私はつわりが軽くて、産むのも楽ではあったようで、先に子供を産んでいた妹に比べると比較的快乐なお産だったようだ。

子供はよく泣くし、おっぱいもあげなければならない。でもそれが苦ではなかった。どんどん可愛くなるよと言われた。男の子だった。

ああ、たくさんこの子に恋文を書こうと思った。この子の世界を広げるためなんだってする。そう思った。

「どうしたの」

子供を見つめてじっとする私に夫が言う。

「うん」

話をした。これまでのことこれからのこと。

「君がそうしたいことをするといいよ」

夫はそういって、そつと笑った。この人でよかったと思った。

(後書き)

ブログ4000ヒット記念でアップしました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8929y/>

---

恋文

2011年11月26日21時51分発行